

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会

Injury Alert (傷害速報)

No. 124 臍圧迫キットにより生じた皮膚びらん

|                          |   |  |
|--------------------------|---|--|
| 事例                       | 基本情報  | 年齢：0歳2か月 性別：男児 体重：5.6 kg 身長：未測定  |
|                          | 家族構成  | 父，母，本児   |
|                          | 発達・既往歴  | 発達正常，既往歴：なし，周産期歴：特記事項なし  |
| 臨床診断名                    |   | 臍部 皮膚びらん   |
| 医療費                      |   | 外来 17,780円   |
| 原因対象                     | 対象名称  | 臍ヘルニア圧迫キット (Mサイズ 先端直径11 mm, 高さ15 mm. 製品サイズについては母がインターネットでみて選択した. 図1)   |
|                          | 入手経路<br>使用状況  | 通販サイトで購入し，1週間前から使用していた   |
| 発生状況                     | 発生場所  | 自宅   |
|                          | 周囲の人<br>周囲の環境   | 両親と普段通り生活していた  |
|                          | 発生年月日   | 2022年4月X日(日) 午前10時0分   |
|                          | 発生時の<br>詳しい様子<br>受診までの経緯  | 1か月健診で触診上1cm×1cm程度の臍ヘルニアを指摘された. その際に臍ヘルニア圧迫キットを紹介されたため後日通販サイトで購入した. 受診1週間前から使用方法通りにヘルニア部位を圧迫し，製品付属のテープを使用して固定していた. 4月X-1日までは臍部位に異常はなかった. X日朝，テープ内に膿性浸出液が貯留していたため，午前12時(正午)に医療機関の救急外来を受診した. |
| 医療機関受診時<br>以降の治療経過<br>転帰 | 全身状態良好で発熱は認めなかった. 臍ヘルニアで隆起した皮膚に膿性浸出液とびらんを認めた(図2). 臍周囲に疼痛，熱感，発赤はいずれも認めなかった. 臍への過度な圧迫による皮膚びらんと判断したが，今後の感染を懸念して抗菌薬含有軟膏の外用とガーゼによる保護，また抗菌薬の内服を開始した. 抗菌薬は3日間で飲みきり後終了とし，1週間後の再診時には，皮膚びらん部位は上皮化していた. ヘルニア孔が1cm程度であったため，保護者には自然閉鎖する可能性が高いことを説明した. 経過良好であったため，同日終診とした. その後の再診はない. |  |
| キーワード                    | 臍ヘルニア，圧迫キット，皮膚びらん   |  |

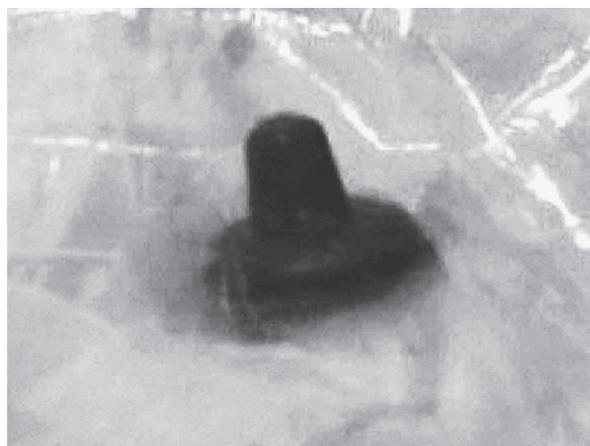


図1 臍ヘルニア圧迫キット



図2 臍ヘルニアにより隆起しており，膿性浸出液とびらんを認めた

## 【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

1. 臍ヘルニアは、臍帯が腹腔内から左右の腹直筋の間を貫いて体外に出る臍輪が開いていることで腹腔内容が腹膜に包まれた形で脱出した状態を指す<sup>1)</sup>。新生児10人に対して約1人に発生し、低出生体重児ではさらに多く発生する。臍ヘルニアに関しては腹直筋の発達に伴い、1年で80%が、2年で90%が自然に軽快するといわれており、以前までは経過観察が主流であった。日本では近年になって可及的早期に行う圧迫療法の医学的及び整容面での効果が見直され、多くの病院で行われている<sup>2)3)</sup>。治療としては、医師に指導されて家族が家庭で行う方法と、医師が定期的に外来で行う方法の2つに大別される。圧迫療法に用いる材料は様々で、近年では固形の圧迫器も市販されている<sup>2)</sup>。Up to dateでは圧迫療法に関しては民間医療と位置づけられており、浸軟や感染につながるため行うべきでないと記載されている<sup>4)</sup>。
2. 臍ヘルニアにおける皮膚炎との関連性について海外での報告はみられなかった。日本ではしばしば報告されており、多施設でのアンケート調査によると臍ヘルニアに関連した皮膚炎の発症率は6割程度とされている<sup>5)6)</sup>。皮膚炎に関しては圧迫器具による接触性皮膚炎あるいは固定部の細菌増殖による皮膚炎が挙げられる。中には、圧迫療法により重篤な皮膚トラブルが発生し、腹壁全層が被覆化して腸管穿孔の危険性があった症例や<sup>5)</sup>、介入が必要であった蜂窩織炎の合併例についての報告もある<sup>7)</sup>。文献によれば細菌増殖による皮膚炎に関しては、0.05%クロルヘキシジングルコン酸塩80%エタノールを用いて固定予定部を清拭することで予防効果があるとされている<sup>8)</sup>。
3. 本事例は、健診の際にキットを紹介され、自宅で家族主導での治療を行っていた。圧迫前の臍の消毒の有無は不明だが、7日間は器具の説明通り使用していたと考えられる。正常に圧迫器具を使用していたとしても本症例のような皮膚障害を起こしうるという認識を今一度持たなければならぬといえよう。
4. 圧迫キットは簡便で良い面もあるが、綿球と異なり大きさや深さの調整が困難でやや硬い素材である。体格や皮膚の状態、腹腔内臓器の挟み込みなどに注意して使用しなければならない<sup>9)</sup>。
5. 傷害予防策は以下の点が提案できる。
  - ・圧迫キット使用中は皮膚の状態を1日1回以上観察し、異常を感じたら使用を中止し医療機関を受診する
  - ・圧迫療法を行う場合、臍門を確実に圧迫する
  - ・自然軽快が十分に期待できる臍ヘルニアに対しては、ホームケアや生じうる合併症について十分な説明を行った上での shared decision making でその必要性を吟味する

## 参考文献

- 1) 日本形成外科学会. 臍突出症・臍ヘルニア.  
<https://jsprs.or.jp/general/disease/umaretsuki/fukubu/heso.html>, (参照 2022-8-21)
- 2) 日本小児外科学会. 臍ヘルニア.  
[http://www.jsps.or.jp/archives/sick\\_type/heso-helnia](http://www.jsps.or.jp/archives/sick_type/heso-helnia), (参照 2022-8-21)
- 3) 佐々木潔. エビデンスに基づいた臍ヘルニア圧迫療法の効果と方法. 日本医事新報 No.4795, 2016. 3
- 4) Up to date” Care of the umbilicus and management of umbilical disorders
- 5) 長田伸夫, 他. 外来小児科 2016; 19: 82-87.
- 6) 大塩猛人, 他. 日小外会誌 2011; 47: 47-53.
- 7) 日小外会誌 2021; 57: 1022-1023.
- 8) 大塩猛人, 他. 小児外科 2018; 50.
- 9) 第6回日本小児へそ研究会 セッションII-5 市販のへそ圧迫キットを使用し、医療関連機器圧迫損傷 (MDRPU) を生じた2例